

トレーニングレポート通信

中国労災病院
薬剤部

No.6
2022年10月号

今回のトレーニングレポート通信は
副作用についての事例です！

事例①：用法変更による副作用の改善

22歳 男性 内科

イムラン®錠50mg

1回1錠 1日1回 朝食後

ペンタサ®顆粒 2000mg/包

1回1包 1日2回 朝・夕食後

👉イムラン®錠50mg服用開始後、日中に悪心が出現したため、
朝食後→夕食後に用法変更を提案。

報
告
内
容

☐ 継続の必要性が乏しい薬剤についての情報提供(ポリファーマシー等)

☐ 服薬状況

☐ 継続の必要性が乏しい薬剤

☒ 副作用(重篤でないもの)

☐ 経口抗がん剤

☐ 手技：自己注射

☐ 手技：吸入薬

☐ オピオイド

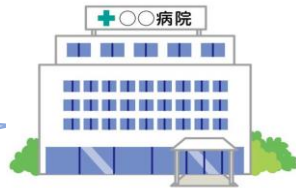
☐ その他()

情報提供・提案事項

イムラン®錠50mgの服用を始めて日中に胃のむかつきがあると訴えがありました。イムラン®錠50mgによる副作用が疑われ、用法を朝食後から夕食後に変更することで改善する可能性があります。
夕食後に変更可能か確認をお願いします。

薬剤部より

情報提供ありがとうございます。
主治医へ確認したところ、**夕食後服用に変更可能**
とのことです。



👉その後

夕食後の服用に変更することで悪心は改善。潰瘍性大腸炎の症状も改善し、
現在も服用中。

用法を変更することで副作用が改善し、服用の継続が可能になった
事例でした。

事例②：ウブレチド®錠2.5mgから5mgへ増量後の副作用についての報告

ウブレチド®錠5mg 1回0.5錠 1日1回 朝食後

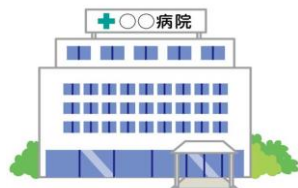
↓
ウブレチド®錠5mg 1回1錠 1日1回 朝食後

👉 **ウブレチド®錠2.5mgから5mgへ増量後、頭痛が出現。
不安になり、自己判断で2.5mgに戻し服用を継続している。**

報告内容	☐ 継続の必要性が乏しい薬剤についての情報提供(ポリファーマシー等)		
	☐ 服薬状況	☐ 継続の必要性が乏しい薬剤	☒ 副作用(重篤でないもの)
	☐ 経口抗がん剤	☐ 手技：自己注射	☐ 手技：吸入薬
	☐ オピオイド	☐ その他 ()	
情報提供・提案事項 X月Y日よりウブレチド®錠2.5mgから5mgへ増量となりましたが、増量したタイミングで頭痛を感じるようになりました。増量による副作用か心配なので、元の2.5mgに戻したとのことです。その判断で間違いないかを薬局に確認にされました。コリン作動性クリーゼの徴候とは異なりますが、自覚している頭痛が副作用でないとも断言できないので、とりあえずはこのまま2.5mgで次回の受診まで経過観察としました。受診時、事後報告するよう伝えております。			

薬剤部より

情報提供ありがとうございます。内容を確認し、カルテ記載で主治医へ報告しました。



👉その後

頭痛は改善しており、夜間頻尿や尿失禁の悪化なく経過。
ウブレチド®錠は2.5mg/dayで継続服用となった。

ウブレチド®錠の増量後、副作用を疑い、増量前の用量に戻した事例でした。副作用の程度によっては受診が必要な場合があります。その場合は早急に対応します。

